

## 人事交流による看護基礎教育と臨床との教育連携強化

岡山寧子<sup>1)</sup>・三橋美和<sup>1)</sup>・堀井節子<sup>1)</sup>・眞鍋えみ子<sup>1)</sup>・倉ヶ市絵美<sup>2)</sup>・橋元副看護部長<sup>3)</sup>

1)京都府立医科大学医学部看護学科、2)同キャリア実践開発センター、3)同附属病院看護部

【目的】看護系大学の教育的課題として「看護実践能力の向上、基礎教育・臨床との乖離を埋めるための教育の充実」が指摘されて久しい。A大学看護学科では「看護実践能力開発プロジェクト」および看護職キャリアシステム構築プラン事業により、看護学科・附属病院看護部の看護基礎教育と臨床との教育連携システム化を試みている。その中で、人事交流による教育連携プロジェクトでは、看護部から看護学科への教育支援を導入した。ここでは、この教育支援のシステム化とみえはじめた成果を報告する。

【方法】教育支援では、以前からの病院看護師による特別講義の実施経験を踏まえ、さらに円滑で組織的な連携推進のために、キャリア実践開発センター(以下、センター)を軸にした人事交流システムを構築した。すなわち、看護学科担当教員が看護部に授業を依頼したい場合、看護学科教育委員会がそれを集約し、センターに申請する。センターは派遣依頼を看護部へ行い、看護部が適任者を選任する。基本的には、看護学科の臨地指導教授制度を活用して選任する。H22年度はこのシステムで試行、受講は看護学科全学生で、各授業後に授業方法・内容等の学生評価を行った。倫理的配慮として、授業の目的や評価が成績に影響しないことと個人が特定されないよう配慮することを説明し、了解を得て実施した。

【結果・考察】平成22年度は約20コマの講義・演習を実施した。その内容は、入学直後に看護部長の総合講義、各学年に医療安全、感染管理、緩和ケア、等の専門性の高い授業、4年生の「看護の統合と実践」科目ではシミュレーション学習やOSCE評価を実施した。学生評価では「専門分野の有用な知識が得られた」「より興味をもち、深く学びたい」等で高い評価、「臨床で直面する場面をイメージできた」「もっと勉強したい」等、前向きな自由記述が多かった。この試みを通して、教員と病院看護師の教育的交流が深まり、学生はアップデートな実践的スキルや情報を学習することができ、看護実践への興味の広がりを実感していた。また、先輩看護師の姿から学生は看護師としての将来像へのイメージを深めたことも見受けられた。このシステムは、現時点では教員個々の教育的ニーズに対応しているが、看護学科の教育課程全体での本事業の位置づけやその意義を再確認する必要性を感じている。今後、さらに系統的でバランスのよい授業展開をすすめ、看護基礎教育と臨床とのつなぎを強化していきたい。(本報告は平成21年度採択の文部科学省による看護職キャリアシステム構築プラン事業報告の一部である。)